

令和2年第2回  
産業建設常任委員会

# 所管事務調査報告

期 日：令和2年5月29日(金)  
午前10時00分～午前11時10分

調査内容：上下水道課所管事務調査  
(1) 県北浄化センター処理施設の復旧状況について

出席者：産業建設常任委員5人

説明者：県北流域下水道建設事務所長、県北流域下水道建設事務所次長、町上下水道課長、下水道係長

## 国見町議会

村 上	一	委員長	・ ・ ・ ・ ・	2
渡 辺	勝 弘	委員	・ ・ ・ ・ ・	3
東海林	一 樹	委員	・ ・ ・ ・ ・	4
佐 藤	定 男	委員	・ ・ ・ ・ ・	5
小 林	聖 治	委員	・ ・ ・ ・ ・	6

## 令和2年第2回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年6月5日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

### 【調査内容】 上下水道課所管事務調査

#### (1) 県北浄化センター処理施設の復旧状況について

県北浄化センター施設の現状を、福島県県北流域下水道建設事務所所長手塚孝良氏の案内で施設を視察した。第1SP棟（ポンプ施設の一部を仮復旧）から仮設汚泥引抜ポンプ、沈殿池では仮設送風機により空気を送り微生物の増殖を図っており、臭気対策のためブルーシートで覆われていた。沈殿池は10基のうち3基が仮復旧されており、汚泥と上水に分離され、上水は塩素混和池で塩素注入され阿武隈川に放流している。最後に視察した放流ポンプ棟は、阿武隈川が増水したときに使用するが、6基中3基は仮復旧している。

台風19号による滝川破堤で施設内が4m浸水した。施設の電気系統は地下に集中しており被害が大きくなった。現在は仮設の電気仮復旧している。

施設の視察後、管理棟の会議室に移動し説明・質疑応答が行われた。業務担当の橋本朝美氏より、被災の状況・復旧スケジュールの説明があった。スケジュールは3段階で設定されており、令和4年4月まで本復旧させたいとの考えであった。復旧予算は11,977百万円計上している。

### 【感想】

昨年11月に環境を守る会で視察した際は、被災直後で汚水が施設内に流出しており臭気もあったが、今回の視察で徐々に復旧してきていると実感した。今後は電気系統を高所に設置する等の対策を講じ、災害に強い施設を整備し、一刻も早く復旧してほしいと考える。

以上

## 令和2年第2回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年6月4日（木）

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 渡邊 勝弘

### 【調査内容】

(1) 県北浄化センター処理施設の復旧状況について

県北流域下水道建設事務所の手塚所長より、敷地内の概要説明と被害状況の説明を受けた。視察後事務所にて県北流域下水道建設事務所の橋本主幹より説明があり、質疑を行った。当時の被害状況としては、管理棟ボイラー室、水質試験室の水没、汚泥処理棟搬出入室、水処理施設上部の破損により稼働が停止した。現在、生活排水は仮設ポンプ稼働により留め置きがなく周囲の悪臭も軽減されている。まだ施設が本格稼働していないため簡易生物処理及び塩素消毒を行っている。今後、放流ポンプ等機内にある電気設備が本復旧していく。総額約120億におよぶ修理を行い、令和4年度以降本格的な稼働となる。

### 【感想】

施設の復旧は計画どおりに進んでいるようであり、完全復旧に向けて日夜作業従事及び努力している方々に感謝申し上げたい。しかし、施設を元通りにする事が大切なことである事は理解できるが、今年も起こりうる災害に対する備えが十分とは考えにくい。阿武隈川より低い土地に建設したのであるから、すべての機能が止まってしまわないように電気施設を高台に移設することも考えても良いのではないかと考える。震災、水害と2度の災害にあつて地域住民はその度に被害にあつていることを忘れてはならない。

以上

# 令和2年第2回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年6月5日

国見町議会議長 東海林一樹

## 【調査内容】

### (1) 県北浄化センター処理施設の復旧状況について

昨年10月の台風19号の被害で完全に水没し、浄化機能が完全に麻痺してしまった浄化センターの復旧状況を視察した。

まず、県担当者の案内で現場を40分程視察した。歩いて一番心配していた臭いは、それほどしなかったため安心した。夏場になればまた違うのかと思ったが今のところは心配ないと感じた。原発事故で汚泥を貯め置きしていた時は本当にひどい臭いだった。

その後事務所の会議室で改めて説明を聞き、質疑応答を行った。

完全に機能が復旧するのは令和3年度末になる予定とのことだった。それにしても復旧費用が120億円もかかるとのことには一寸驚いた。

いずれにしても一日も早い復旧を願うものである。

以上

# 令和2年第2回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年6月1日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

## 【調査内容】

### (2) 県北浄化センター処理施設の復旧状況について

#### 1. 被災の状況

- 昨年10月に発生した台風19号により河川が氾濫し、施設内に大量の水が流れ込んだ。
- 管理棟は地上約4メートルまで浸水、敷地全体が水に覆われた。
- 施設を稼働させている電気設備も浸水により働きを失い、浄化センター全体が機能不全に陥った。

#### 2. 復旧スケジュール

- 令和元年10月15日から緊急措置として塩素消毒を実施、同25日から既存の水処理施設を利用した応急処理（沈殿＋塩素処理）を行った。
- 現在は応急復旧の段階で、塩素消毒に加え一時貯留などで沈殿処理、更に簡易生物処理を行い放流している。
- 災害査定決定額は約120億円、本復旧（被災前に行っていた通常の高級処理）は令和4年度以降となる見込みである。

#### 3. 応急復旧の状況

- 水処理は10池の内3池しか利用できず、不十分な状態である。
- 塩素混和池も3つだけの使用である。匂い防止のため池をブルーシートで覆って拡散を防いでいる。
- 放流水は以前のように綺麗ではないが、水質管理を徹底している。

## 【意見・感想】

- 施設内の設備を案内していただき、改めて被害の甚大さを実感した。
- 担当者からは、本復旧に向けて着実に事業を進めていくこと、また災害発生時の被害を最小限に食い止める方策を考えていくとの話があった。

以上

## 令和2年第2回産業建設常任委員会 所管事務調査報告書

令和2年6月3日（水）

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 小林 聖治

### 【調査内容】 上下水道課所管事務調査

#### （1）県北浄化センター処理施設の復旧状況について

最初に浄化センター施設内現場にて視察しながら説明を受ける。

その後、復旧状況の説明を受け、浄化センター関係者と意見交換を行った。

### 【感想】

昨年10月の台風19号、記録的大雨により被害を受けた浄化センターが、復旧のスピード感について様々な意見がある中で、概ね順調に復旧が進んでいると感じた。

しかし、私は被災前の原状に復旧するだけでなく、さらに一步進んだ対策が取られるべきと考える。

それは、近年の異常気象による大雨対策であり、再度、昨年のような状況が起きても、被害を受けないような対策を講じることが重要である。特に、浄化センターを稼働するにあたって、電源の確保は命綱であり、今回の復旧に際しても、浄化装置の復旧はもちろんですが、洪水による電源喪失が起きないような対策が重要と考える。

私は、9年前の原発事故において、あの水素爆発の原因は津波によるものという報道がされているが、実際は、地震により原発の背後地にあった送電線の鉄塔が倒れ、原発に供給していた電源がすべて喪失したことが直接の原因であったと、当時の第一原発所長から聞いたことを思い出した。

意見交換の中で、浄化センター側から「原状復帰を目指すうえで、耐水対策については、別の予算を使って対応したい」との姿勢をみせていただき、安心したところである。

以 上